



みんなが活躍するセーフコミュニティ！

秩父市では、世界基準の安全・安心なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの取り組みを推進しています。セーフコミュニティとは、「事故やケガは偶然起こるのではなく、予防することができる」という理念に基づき、根拠となるデータを検証しながら、市民の皆さんとさまざまな団体が協働して予防対策を行う「安全・安心なまちづくり」です。市では7つの分野ごとにデータの分析、取り組みを実施していますが、今回は災害時の安全対策委員会の取り組みについてご紹介します。

災害時の安全対策委員会では、「災害情報の共有及び配信の推進」、「地域ボランティア除雪隊の開始」、「災害時における避難行動要支援者登録の推進及び関係機関への登録者の情報共有」、「自主防災リーダーの育成」、「自主防災訓練の充実」などの取り組みを推進しています。「災害情報の共有及び配信の推進」では、平成26年2月の大雪災害時に、関係機関や市民の中で情報が錯綜し、正確な情報伝達が困難となったことを受け、災害時の対応計画などを事前に確認しておく連絡会議を県が中心となり開催しています。また、情報配信は、ちちぶ安心・安全メール、防災行政無線、ホームページ、災害情報フェイスブックページなどで、市民の皆さんへお知らせし、除雪の優先順位を決めた路線図を作成して、ホームページで公開しています。



小型除雪機の貸し出し

「地域ボランティア除雪隊の開始」では、大雪の際に行政の除雪作業だけでは、住民のニーズに答えられないことから、除雪作業や雪置場の提供を行った町会に市からガソリン代程度と雪置場1か所につき3,000円の補助金を交付しています。また今年度は、行政の除雪対象ではない路線や歩道の除雪を対象とし、町会へ小型除雪機の貸与を行い、地域と一体となって大雪対策を進めています。

「災害時における避難行動要支援者登録の推進及び関係機関への登録者の情報共有」では、災害時に支援が必要な方の名簿を作成し、町会の自主防災組織や民生委員・児童委員、警察、消防などの関係機関へ、名簿の情報を提供しています。これにより、万が一の災害の際に、要支援者の安否確認や避難支援等を行う体制づくりを推進しています。

「自主防災リーダーの育成」では、各地域に防災に詳しい人材を増やすことで、地区の防災力の向上につながることから、町会の自主防災組織を対象とした自主防災リーダー養成講座を平成26年度から開催しています。また、県が主催する自主防災リーダーを養成する指導員養成講座に参加し、当市から2人の指導員が任命されています。これらの指導員の方々と連携し、自主防災リーダーを養成し、地域の防災意識の向上につなげています。

「自主防災訓練の充実」では、80町会全てで独自に計画し、地域の実情に合わせて行われている自主防災訓練を支援しています。身近に危険箇所があることを知ること、防災意識の向上を図るとともに、学校やPTA、育成会などと連携をとり、参加

者の拡充を図っています。土砂災害の危険箇所がある久那地区や上白久地区では、土砂災害を想定した避難経路の確認作業を住民がワークショップ方式で検討し、避難経路図を作成しています。また、久那地区では、作成した避難経路図を防災訓練の際に、地区住民へ周知しています。



作成した避難経路図を防災訓練の際に、地区住民へ周知しています。

災害時は、地域での助け合いが重要となります。質の高い安全・安心なまちづくりを実現するため、市民の皆さんと一体となり、さらなる取り組みの強化に努めていきます。

同時に掲載されている8ページの「大雪に備えて」の掲載内容をぜひご確認ください。必要な登録や情報をご確認ください。

次回は、高齢者の安全対策委員会の取り組みをご紹介します。

問 危機管理課 ☎22-2206